



The service club to the YMCA

THE Y'S MEN'S CLUB OF TAKARAZUKA

宝塚ワイズメンズクラブ
〒 662-0977 西宮市神楽町 5-23
西宮 YMCA 内
Tel (0797)35-5987

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIS EVERY RIGHT

AFFILIATED WITH THE INTERNATION OF Y'S MEN'S CLUBS CHARTERED MAY 22,1988

宝塚ワイズメンズクラブ

2018年1月会報

第352号

主 題 ・ 標 語

国際会長(IP) Henry J.Grindheim

主 題: " Let Us Walk in the Light-Together " 「共に、光の中を歩もう」
スローガン " Fellowship across the borders " 「国境なき友情」

アジア地域会長(AP) Tung Ming Hsiao(台湾)

主 題: " Respect Y's Movement " 「ワイズ運動を尊重しよう」

西日本区理事(RD) 大野 勉 (神戸ポート)

主 題: 2022 年に向け「心身の健康づくりから、クラブの健康づくり」
" Healthy mind & healthy body make healthy club "

副 題: 「今あるクラブを充実させ、しょうらいのクラブへ
宝(財産)を伝承していこう！」

六甲部部长 杉本 隆人(神戸学園都市)

主 題: 「共感しあい、支えあおう」

Empathy each other, Root y's & YMCA

宝塚クラブ会長 武田 寿子

主 題: 「次世代への継承！」Continuity to the Next Generation
地域への奉仕、エネルギーを結集し西日本区大会を
成功させよう

今月のテーマ : IBC(国際兄弟クラブ)DBC(国内兄弟クラブ)
「やめさせてはならない。あなたがたに逆らわない
者は、あなたがたの味方なのである」。
(ルカによる福音書 9章 50節)

2018年1月例会

日 時 : 2018年1月10日(水)18:30~20:30
場 所 : 宝塚ホテル ゴールドの間
会 費 : 会員3,100円、会員外3,500円

ドライバー 加藤光信 福田 肇

開会点鐘 武田寿子会長
ワイズソング 全 員
聖書朗読 鯖尻佳子
ゲスト・ビジター紹介 武田会長
会 食

お話し

山田真知子氏
「平和の使者(青い目の人形)
~90歳を迎えた人形を訪ねて~

会長報告・委員会報告
YMCAニュース
誕生日記念日
閉会点鐘

武田寿子会長

2017/18 役 員	会 長 武田寿子 直前会長 若林成幸 副会長 多胡葉子 書記 若林成幸 会 計 吉田 明 堀江裕一 会計監査 加藤光信 連絡主事 谷川 尚 メネット連絡 福田素子
事 業 委員長	YMCAサービス・ユース 福田宏子 地域奉仕・環境 多胡葉子・EMC 若林成幸 交 流・ファン ド 石田由美子 広 報(ブリテン) 長尾 亘 (HP) 長尾 亘
特別事業 委員長	NGO 鯖尻佳子 じゃがいも 福田 肇 バザー 青柳美知子 市民クリスマス 若林成幸
お誕生日 おめでとう!	武田寿子(25日) 武田 建(19日) 堀江裕一(12日)
12 月 実 績	例会出席者数 35名 在籍会員数 20名 (内功労会員1) 出席会員数 15名 出席率 75% メイクアップ(内数) 0名 メネット 2名 コメント・孫メット名、ゲスト・ビジター18名 例会充足率 157%
	B F ポイント 12月 0円 累 計 19,580円 にこにこBOX 12月 2,000円 累 計 19,750円 ファン ド (物品販売) 12,000円 累 計 33,000円 クリスマス献金 26,685円

会長のことば

新年おめでとうございます。皆様穏やかで平和なお正月をお迎えになったことでしょう！



長年の友人である節子サーローさんがノーベル賞の授賞式で、ICANの代表として「平和を作り出す第一歩に」の力強いメッセージは世界中に感動と共感を得たのはうれしいことでした。

12月の宝塚ワイズの活動は、第13回キャロルを歌う夕べを皆さんに楽しんでいただき、ユースを招いたクリスマス例会では、メンバーを超すゲストをお迎えし、日頃私たちが神戸YMCAのどんな活動を応援し、支援しているかを知ることができ、豊かなクリスマスを終えることができました。会長を引き受けどうなるかと、心配でしたが、メンバーの強力なお支えで何とか半分無事歩みを進めることができ感謝です。しかし、3月には30周年例会、6月には西日本区大会とまだまだこれから、皆様のチームワークが必要とされます。それぞれが健康に気を付け「すこやか、しあわせ、ワイズとともに」を実践したいものです。

武田 寿子

12月例会報告

12月第一例会第二部は場所をゴールドの間に移ってメン、メネット17名、ゲストビジター18名。計35名の出席により開催されました。武田会長の開会



点鐘、ワイズソング、聖書朗読、祈禱に続いてゲスト・ビジターの紹介がありました。クリスマス例会に相応しいお料理の数々。

12月例会は「ユース招待例会」としてユースの活動報告です。



食事も終わり和やかな雰囲気が会場を包む中、「地球市民プロジェクトと私」と題して西宮YMCAスタッフの太田ひかりさん、神戸YMCAスタッフの橋本唯さんのお話を聞きました。国や宗教が違っても様々な人々との繋がりでコミュニケーションをとることの喜びを



学んで充実した大学生活を送られたようです。また余島キャンプリーダーをされた中正法さんが「余島キャンプで得たもの」を話されました。台風があった後のキャンプは大変でしたが1泊12日のキャンプで自分がしてもらったことをしてあげたいという思いだったようです。キャンプが終わった後は子供が大好きになっていたと言われていました。はんしん自立の家でのボランティア体験をオハラ・フェリシティさんが日本語も交えて話して下さいました。たくさんの方とクリスマス例会を共に過ごせて、武田会長の閉会点鐘で幸せなクリスマス例会は終了になりました。

鯖尻佳子

12 月第2例会報告

12 月は、クリスマス行事日程を考慮して第 2 例会を 12 月 13 日(水)18 時から宝塚市西公民館で開催。武田会長、多胡、石田、青柳、福田宏、鯖尻、吉田、堀江、長尾、西川、若林各メンが出席した。議事要旨は次の通り。

1. 12 月プログラムについて、

- 12/15(金)市民クリスマス当日の進行表に沿って役割分担を確認した。開演に遅参する出演者(学生)への対応、終演後の控室等の後片付けで相互に協力が必要。
- 12/20(水)18 時からクリスマス例会はユース招待日とし、“地球市民プロジェクト”“余島キャンプ”“自立の家でのボランティア活動”に関し 4 名の青年から体験談を、また、礼拝には関学神学生のお話しをお願いしている。“今月のみことば”担当の嶺重先生も招待。クリスマス祝会だが酒類は出さず、通常例会並みの会費とする。

2. 1 月以降の例会運営について

- 例会の卓話。1 月 10 日は、山田眞知子氏「平和の使者(青い目の人形)～90 歳を迎えた人形を訪ねて～」
- 2 月 14 日(TOF 例会)は、会員 西川勝久メン「かるがも園での働き」。
- 3 月 21 日 12～15 時、クラブチャーター 30 周年記念例会を宝塚ホテル オーシェルの間に開催。参加者 70 名を見込み、“映像による 30 年史”、アトラクションに服部氏によるギター弾き語りなどを予定。会費は 7000 円とし、長尾メンに企画を依頼。必要経費は、クラブ交流積立金 120,000 円から支出する。
- 4 月は、谷川 寛メン(大阪センテニアルクラブ、JICA 国際交流センター講師)“聖地パレスチ

ナを訪問して(世界同盟)”。5 月は、沼野尚美氏(宝塚市立病院緩和ケア病棟チャップレン・カウンセラー)の推奨があった。

3. 国際選挙について

会長から、国際選挙について説明があり、国際会長選挙は 3 人の候補者からジェニファー・ジョーンズ氏(オーストラリア・アデレード YMCA、70 歳)に、また、定款改正(案)「国際協会が解散した場合の財産・基金の受け入れ団体を世界 YMCA 同盟とする」については賛成票を投ずることとした。

4. ジャガイモ販売について

ジャガイモは 11 月に完売したが、売上入金 of 完了を待って、次月に報告する。

5. 西日本区大会準備について

西日本区大会の具体的な肉付け作業の段階にある。12/18 第 12 回実行委員会では、1 月中旬に発送予定の「大会案内」パンフの内容確認を行う。また、IBC/DBC 締結予定クラブの調査などを行っている。

6. ブリテン 1 月号について

長尾メンの 1 月号編集方針に従い、寄稿分担・作業日程の確認を行った。

7. その他

- ギブクラブの X'mas プレゼントを各メンに配布し、返礼として日本風の風呂敷 30 セットを送付した。
- 六甲部 CS 活動に関し、ベルマーク収集、4/28 開催予定の「キラリと輝くアート展～臨床美術～」予告。

書記 若林成幸

プロフィール

山田真知子氏



神戸女学院大卒
卒業と同時に神戸の放送局”ラジオ関西“にアナウンサーとして入社。電話リクエスト、トーク番組、報道番組など幅広いジャンルの番組を担当。



退職後はフリーとして式典などの司会進行、話し方指導、講演プロダクションの講師などを務め、幅広い活躍。

第13回クリスマスキャロル

「地域と一体、心温まる市民クリスマス」

西日本区理事

大野 勉

子供たち、学生、障がいのある方々そしてご高齢の方々、みんなが楽しむクリスマスコンサート。音楽を演奏することを通して、みんなでお祝いする素晴らしいクリスマスでした。

プログラムも工夫されていました。1部は、「クリスマス物語」として、イエスの誕生にまつわるお話を交え、歌と劇でよく構成されていました。2部は、「みんなでクリスマスを祝おう」という気持ちがあふれ、温かい雰囲気の中で演奏、踊りが進みました。舞台側だけでなく、会場側のすべての人をも包み

込んで、「お祝いする」気持ちが高まったように感じました。舞台と会場をつなぐMC(司会者)の、巧みでユーモアのある言葉の一言一言が、温かい空気を醸し出していました。

第13回チャリティー市民クリスマス。このような、市民と演奏者、そして企画した人が一体となって開催される「市民クリスマス」が今後も長く続けられることを願っています。



“キャロルを歌う夕べ”

西日本区 Yサ・ユース事業主任

山川 新一

第13回を重ねる宝塚クラブさんの“キャロルを歌う夕べ”私は、ワイズメンズクラブに入会して2年目の第9回から、毎年お邪魔しています。今年も楽しみにしていた通り、穏やかで温かい時間を過ごさせて頂きました。

仕事が早く終わり開会前の幼稚園児さんの合唱から聞く事ができました。澄んだ瞳で大きな口を開けて一生懸命に歌う姿には、背中に翼が見えました。

第1部は恒例の合唱から始まりました。やはり、クリスマスにはハーモニーがよく似合う素敵な歌声にクリスマス気分は大いに盛り上がります。さて次は、ハンドベルも朗読の椅子もない舞台？すると袖から三人の博士が現れました。有名なキリスト誕生のお話しに実はもう一人、



四人目の博士がいたと……。思わず笑ってしまう楽しい劇でした。二部は皆のお待ちかね、ポップンリンガーズからマハロへ繋がるレギュラー陣。ポップンリンガーズは、年々バージョンアップして細かな音使いからハーモニクスまで屈指して、それでいて一人一人が音楽を楽しみながら生き生きと奏でる姿には今年も胸が熱くなりました。そして会場は一気に華やかになります。ステージ上にも通路にも頭に花飾りを付けたマハロの皆さんが現れると気分は最高です。笑顔が素敵でゆったりとしたフラの動きに気持ちを込めて。スローテンポであるほどシンクロするのは難しいはず。息の合ったそのステージにもっと長く観ていたいと会場の誰もが思ったはず。最後は、会場皆でキャロルを歌い“ハレルヤ”コーラスでお開きとなりました。この企画を長年続けられている宝塚クラブさんの情熱と愛情に感謝です。是非、これからも長く続けて頂き私たちを楽しませてください。

ご盛会おめでとうございます。

「第 13 回市民クリスマスを終えて」

2017 年 12 月 15 日夜、第 13 回市民クリスマス「キャロルを歌う夕べ」は、出演者総勢 100 名・お客様 304 名・世話役(ワイズ・リーダー等)13 名、厚生幼稚園(園児・保護者・職員)40 名、合計 457 名が集い、感謝と喜びの内に終えることが出来ました。

今回は、初めて劇が登場。地域活動に積極的に参加を希望する関西学院大学神学部の有志



がヴァン・ダイク作の童話「アルタバン物語」を劇にして演じてくれました。パフォーマンスを通して和やかな雰囲気を出してくれた若者たちに拍手を送りたいと思います。

また、フラチーム“マハロ”も 26 名という大所帯で出演。きっちりと授業をこなし、本番ぎりぎりに駆け

つけてくれた勉強熱心な学生たちの、パワー溢れる踊りはまぶしく見えました。ポップン・リンガーズも夏の熊本遠征旅行を終え、自信溢れる演奏とパフォーマンスを披露、客席には涙を堪えるお客様もちらほら。最早、脱帽です。市民クリスマス合唱団は 9 月から 11 回の練習を積んで本番に臨みました。「お生まれだイエスマガ」「おどる姿で主イエスは」「パッヘルベルのカノン」「O Holy Night」を合唱し、いつものようにダカーポの弦楽合奏を伴奏に「キャロルの花束」をお客様と一緒に歌い、そして「ハレルヤ」をフィナーレとしました。「ハレルヤ」を歌うことが楽しみというお客様もあり、また、子供たちも舞台上上がって笑顔を振る舞ってくれるなど、音楽を通じてクリスマスの素晴らしさを共有することができました。

また、今回から関西学院大学同窓会宝塚支部が後援の列に加わり、数名の同窓が来場されました。資金的にも地域の教会の献金、ワイズメンズクラブの地域活動助成金などを頂戴し、ロビーで呼びかけた“YMCA 国際協力募金・震災被災者支援募金”にも 127,087 円の浄財が与えられ、ワイズが要となって地域社会との結びつきが広まっていることを喜びたいと思います。改めて、メリー・クリスマス！

(若林成幸)

「おじいちゃんのコンサートに行ったよ」

小4 若林弥生

私は 12 月 15 日におじいちゃんの市民クリスマス・コンサートに行きました。まず、着いてから夕ごはんを食べました。コンサートには一部と二部があって、指揮者はおじいちゃんでした。

一部は、合唱と劇です。劇におじいちゃんが村長の役で出てきました。あれはみんなへのサプライズだったそう



です。二部はミュージックベル合奏と、フラダンスと、みんなでキャロルを歌おうと、フィナーレのハレルヤ・コーラスです。みんなでキャロルを歌うときは、クリスマスの歌がたくさんかいてある小さながくふがあつて、その歌を歌うということです。

おじいちゃんは、わたしたちがすわっている所が、分からなかったそうです。歌声がとてもきれいでした。楽しかったので来年も、また来ようと思います。

「キャロルを歌う夕べ 司会の場所から」

今年のキャロルも素晴らしかった！年々出演者の意気込み、レベルが上がっているのを感じます。今年もポップンリンガーズの演奏は感動ものでした。特に力強さが加わったと感じました。楽器や指揮等、新しい事に挑戦するエネルギーは周囲を巻き込んでくれました。次回は何が登場するのかもう1年先をわくわく感で待っています。

関学神学部学生会、関学三田フラサークル・マハロの若者たちも更なるパワーを与えてくれました。

神学生の劇に関して、いつものクリスマス物語朗読より動きがあつて楽し



めた、との感想を聞きました。これからも私達キャロルファミリーの仲間になりそうです。

マハロも、遅くなるけど出たい！と言う学生達10名が列車の遅れもなく無事に間に合ったので26名と言う大人数で協力しました。サークル顧問の村瀬義史宗教主事は、キャロルは特別なものでこんな機会を与えられて学生達は大変恵まれているとコメントされています。

会場での出演者、はんしん自立の家の入居者5名の内何名かは最後のハレルヤコーラスが始まるとスタッフに抱えられ車椅子で参加。Kさんに「楽しい？」って聞くと、にっこり笑って「楽しい！」とのお

返事でした。

最後までしっかり見てくれた宝塚厚生幼稚園園児

さん達は園長先生の「ハレルヤ、のとこだけ歌えばいいのよ」ってリードされたくさん舞台上



上ってくれました。そうです、それでいいのです！

初めて足を運んだ元音楽教師・Nさんは、こんな

楽しいコンサートは初めてです、との事で、来年の合唱団メンバーにお誘いしています。



と言う事は又、来年に備えて体力強化を心がけないと…

(石田由美子)

キャロルの夕べ・今年も感動！

最後のハレルヤコーラス「舞台上上がりみんなで歌いましょう！」との司会者石田由美子ワイズの声に客席から老若男女問わず手渡された楽譜を持って舞台へと。逆に車椅子でこられ



ている自立の家の方々と一緒に歌うために月一回自立の家でなのはなコーラスを指導して下さっている山本基子さん、その助っ人の私と3人の仲間達は最後列の彼らの席へ。

ふと気がつくとその最後列の自立の家の入居者の中のお二人が、ボランティアの手を借りてお一人は車椅子ごと舞台へ。

会場のベガホールは車椅子対応ができていない舞台のために自立の家の方々は客席でしか歌えないと私たちは思い込んでいたのです。

全員の生き活きとした笑顔でのハレルヤコーラスの大合唱！ひととき自立の家のメンバーの笑顔は輝いていました。なんでもできないことは無い。

との自立の家の方々の前向きな取り組みがここでも活かされました。自立の家の石



田英子施設長曰く「来年は全員が舞台上がりそう、ボランティアの皆様よろしく」と。甲山登山の実績、そして、月



一回のなのはなコーラスのハレルヤの練習が入居者の方々に勇気と希望と自信が与えられた。

毎年感動が与えられるキャロルの夕べ！このことは今年の感動の一つでした。

(多胡 葉子)

第13回チャリティー市民クリスマスに参加して

恒例のキャロルとは多少プログラムの内容

の異なった今年のキャロルに再びコーラスの一員として、舞台に立つことができ、アルトのパートに四苦八苦したものの、楽しく歌うことができたのは感謝である。年々、ポップン・リンガーズのベル合奏、大学生のフラ等若者たちの上達には感動を覚えるのは事実だが、総指揮者：若林成幸氏の寸劇での村長役に新たな彼の特技を発見できたのは大きな喜びであった。

(福田宏子)

市民クリスマスの「ハレルヤ」に感動

今年も私はクリスマスの恵み満身に感じ、合唱団の席の中に居た。幸せなことでした。そして、この会場にはいつも神様がまた天使が舞い降りてくるのを実感している。

今回の関学生による寸劇は「えっ、博士は4人だったのか？」という驚きを観客に。



ポップンは今回も聴衆をトリコにした。オケもソリストも合唱も、そして総勢26名のフラも、本当によく雰囲気盛り上げてくれました。フィナーレのハレルヤの感動を今年も満喫する事が出来ました。

(吉田 明)



(宝塚クラブメンバー)

他クラブ訪問

大阪泉北クラブ訪問記

12月21日(木)午後6時半、大阪南YMCAで開催された大阪泉北クラブクリスマス例会に出席してきました。山田理学会長の開会点鐘の後、ワイズソングを歌い、ゲスト・ビジター紹介、聖書朗読と続きます。食前感謝のあと手作りのおもてなしに心まで温かくなりました。祝会はオカリナ演奏、クリスマスソングの数々でした。「赤鼻のトナカイ」を一緒に

歌い、また中島みゆきの「時代」、大田裕美の「シベリヤ鉄道」など懐かしい学生時代を思い出す曲が多かったです。オカ



リナは吹き方によって音色が違うようです。大きなオカリナほど低い音、小さくなるほど音は高くなるようです。とても興味深いことでした。大阪土佐堀クラブの丹吾礼ワイズにもお会いして楽しくお話することが出来ました。また吉田芳子メネットのご主人吉田全孝ワイズはわざわざ芳子メネットに電話して下さいました。思わぬ方にお会いできるのも他のクラブ例会出席の楽しみかもしれません。YMCAの歌を歌い閉会です。寒い日でしたが心温まる素敵なクリスマス例会でした。

鯖尻佳子

芦屋ワイズメンズクラブ20周年記念例会とクリスマス祝会

12月23日〔土〕午後一時の開会寸前に会場にすべり込んだ私は

芦屋ワイズメンズクラブ 20周年記念例会をかねたクリスマス祝会に 150名の参加者でホテル竹園の大ホールは満杯なのにびっくりした。

プログラムも盛り沢山で、ワイズソング、礼拝に始まり、神戸 YMCA 井上真二総主事、大野勉西日本区理事、森田恵三ワイズ将来構想特別委員会委員長の祝辞があり、続いて第二部のミュージックアワーでは往年のギタリストクロード・チアリさんの演奏であった。聞き慣れた曲等美しいギター

の音に合ったチアリさんのお人柄もあり不思議なゆったりした時間が流れた。



た。その後は賑やかな会食の間に芦屋クラブの活動紹介、やゲスト、各クラブの紹介もあり、恒例のオークション、YMCA への記念品贈呈、最後は全員輪になって「きよしこの夜」を歌ってお開きになった。

青柳美知子

【今月のみ言葉】

今月取り上げた御言葉は、見知らぬ人物が無断で主イエスの名前を使って悪霊追放等の活動を行っていたため、それをやめさせようとしたという弟子のヨハネの報告を聞いて、主イエスが弟子たちに語られた言葉です。ここで主イエスは、自分たちの集団に属さない人たちを自分の仲間と認めずに、すぐに敵対視しようとする弟子たちの偏狭な姿勢を戒めているのです。

しかし、このように自分たちと異なる集団に属す人々を差別したり、排斥したりする傾向は、歴史上のあらゆる人間集団に見られるものであり、特にグローバル化した今日の世界においては、この傾向が以前にまして強くなってきているように思えます。最近はまだ、「アメリカ・ファースト」や「都民ファースト」等の「〇〇ファースト」という表現が頻繁に用いられるようになりましたが、よく考えてみますと、特定の人々や集団を優先させるということは、それ以外の人々は軽視しても構わないということにもなり、結果的にはそれらの人々を「排除する」ことにつながっていくことは明らかです。そして、このような排他的な姿勢の根底には、常に自分たちを世界の中心において自らの立場を守ろうとする自己中心的な発想があるように思います。主イエスは何より、このような傲慢な特権意識を克服し、他者に対して開かれた寛容な姿勢をもつことを私たちに求められたのではないのでしょうか。

嶺重 淑

YMCA だより



新年あけましておめでとうございます。

今年、ワイズ、特に神戸YMCAをお支えいただいている各クラブそして六甲部にとっては周年行事そして西日本区大会ホストとして、忙しくも多くの出会いが与えられるであろうという年です。この機会に、YMCAも新たに与えられた「ブランド」ロゴやスローガンそして何よりその変化にある意味を多くの方々と共に分かち合い、新たな力に変えていけるよう歩みたいと思っています。

今年もたくさんのお支えをお願いするとともに、多くの喜びと希望をともに分かち合いましょう。何卒よろしくお祈りします。

1. 神戸市民クリスマス報告

第 59 回となる神戸市民クリスマスですが、12 月 15 日(金)に神戸栄光教会ほか神戸市中央区にある諸教会にて無事行うことができました。今年はキャロルを歌う夕べと同日開催になってしまったため、参加できたメンはおられないですが、毎年宝塚を含む六甲部各ワイズメンズクラブにもお支えいただいていること感謝をします。

カソリック教会、聖公会、日本キリスト教団など宗派を超えて、またキャロリングサービスでは福祉施設やパルモア病院訪問など様々な方とともに祝う集いは、YMCAの願う多様性と包摂を体現したプログラムでもあり、貴重な機会を多くの支えと熱意で行えていることを重ねて感謝します。もし次年度は日程が合えばぜひ皆さんもご参加ください。

2. YYフォーラム開催について

例年、ワイズやリーダー、スタッフと学び語り合う機会として実施している表記の会ですが今年度は、2018年2月10日(土)午後開催することとなりました。今年度よりスタートした「ブランディング」をもとにYMCAに集うワイズ、リーダー、スタッフを中心に熱く語り合う時間を持ちたいと思っています。たくさんのご参加をお待ちしています。

日 程:2018年2月10日(土)13:00~17:00

場 所:神戸YMCA三宮会館

内 容:「ひろげよう! ~ブランディングから始まるYストーリー」

それぞれのYMCAへの思い出そして思いを語り合います。

3.スピーチコンテストのお誘い

12月例会では「第10回神戸YMCA・コミュニケーション日本語スピーチコンテスト」へのご協賛ありがとうございました。

神戸YMCAではかねてより日本での進学や就職を希望する外国人の方々のために日本語教室・日本語学校を行っていますが、日本語を学ぶ学習者が、日本での経験や見聞などをテーマにスピーチを行うことで、日頃の学習の成果を披露するとともに、地域の方々にかねらの存在をより深めていただくため、関係各方面の方々のご協力いただき、スピーチコンテストを開催するようになり10回を数えています。日々、ご支援いただいているワイズの皆様には、ぜひ留学生の声を聞いていただけると幸いです。お越しいただけることで学生にとっても大きな励みになると思います。皆様の当日のご参加をお待ちしております。なお、参加希望される方は事前に神戸YMCAカレッジ中道(もしくは谷川)までご連絡ください。席を確保するようにいたします。

《第10回コミュニケーション学院・神戸YMCAスピーチコンテスト》

日 時:2018年2月28日(水)9.00-13.00

場 所:兵庫県民会館 けんみんホール

主 催:神戸YMCA/コミュニケーション学院

協 賛:神戸日本語教育協議会

第21回西日本区大会 実行委員会コーナー

第21回西日本区大会実行委員会コーナー

今年最後の実行委員会が2017年12月18日(月)、いつもより30分早く、18:00から始まりました。2018年1月半ばスタートする大会登録に備え最後の詰め、確認に充分時間を取りました。基本的に西日本区HPを通してネット登録を個人でする事になります。慣れない人にも分かりやすく進めて行ける、全体を把握しやすい、支払いも簡単、等がテーマです。今回はIBCメンバーが登録しやすいように英語版を併設します。

各クラブがIBCに呼びかけて欲しいと願っています。

又、大会当日六甲部メンバー、メネット、ボランティアに着て頂くBen グリーンのポロシャツサイズ調査を始めました。男女兼用ですがサイズが豊富なので着やすいと思います。2,000円です。大会終了後も「普通に」着られるのがポイントです。

2018年年明けと共にいっそう心一つにして大会成功に向けて行きましょう!

尚、30分早く委員会を始めた理由は、終了後近くのお店での忘年会でした。



石田由美子実行委員長

2017.12.15 市民クリスマス会計報告
(円)

収入の部		支出の部	
教会の協力献 金(甲東・宝塚)	120,000	ベガホール 使用料	186,488
合唱出演者の 協力金(34人)	114,100	謝礼(3名・ 3団体)	110,000
ワイズメンズ クラブの拠出 金	134,453	楽譜制作費	32,778
その他の寄付 金 (関学同窓会宝塚 支部ほか4件)	57,500	プログラム 等印刷費	6,585
		調律費	21,600
		弁当・プレ ゼント代	57,438
		練習会場費	10,000
		送料・手数 料	1,164
合計	426,053	合計	426,053

会費納入のお願い
2017/18年度後期分(1~6月)
金額 20000円
(前期分未納の方は合わせてお願いします。)
(振込みの場合)
銀行名 三菱東京UFB銀行・宝塚中山店
口座番号 楓通口座4585836
口座名 宝塚ワイズメンズクラブ
以上会計 吉田

*募金 127,087円は、全額を神戸YMCAに送金。